

熊本赤十字病院薬剤部 卒後研修プログラム



目次

1. 主な指導者と役割	3
2. 研修に関する記録・管理.....	3
(1) 研修会・学会・資格取得に関する記録.....	3
(2) 卒後研修プログラムに関する記録管理.....	3
3. 卒後研修プログラム.....	4
(1) 初期研修プログラム.....	4
(2) 中期・後期研修プログラム	7
I 総論	7
II 内服・外用薬調剤	8
III 注射薬調剤	10
IV 製 剤	11
V 病棟業務.....	12
VI 医薬品情報	14
VII チーム医療	15
(3) 卒後研修プログラム進捗確認票	16

1. 主な指導者と役割

【主な指導者】

- ・ 薬剤部長
- ・ 薬剤副部長
- ・ 薬剤部課長
- ・ 薬剤部係長
- ・ 薬剤部主任

プログラム統括責任者：薬剤部長
研修管理者：課長または薬剤副部長

【役割】

- ・ 研修プログラムを理解し対象者に説明を行う。
- ・ 研修プログラムの改正・立案等を行う。
- ・ 学習ニーズを把握し、学習意欲を高めるための動機付けを行う。
- ・ 新人と教育担当者の良好な人間関係を支援する。
- ・ 仕事の仕方・学習方法・態度面・心理面を支援する。
- ・ 現実的な目標設定ができるように支援する。
- ・ プログラムが予定どおり習得できるように支援する。
- ・ 対象者に対し評価とフィードバックを行う。

2. 研修に関する記録・管理

（１）研修会・学会・資格取得に関する記録

日本病院薬剤師会（主催/共催）の研修会や学会参加の記録は、病院薬学研修管理システム（HOPESS）で各自管理する。

（２）卒後研修プログラムに関する記録管理

- ① 初期研修プログラム
- ② 中期・後期研修プログラム
- ③ 卒後研修プログラム進捗確認票

<参考資料>

○日本赤十字社薬剤師人材育成標準プログラム

○厚生省 薬剤師臨床研修ガイドライン

○日本病院薬剤師会ホームページ公表資料（京都大学医学部附属病院薬剤部、千葉大学医学部附属病院薬剤部の薬剤師レジデント研修概要）

令和 6 年 12 月作成

令和 7 年 4 月改訂

3. 卒後研修プログラム

(1) 初期研修プログラム

調剤	注射・製剤	病棟・TDM	DI	薬剤部長

＊1 週間毎に各部署の責任者に提出。指導者は実施項目を確認し押印する。

＊総論は調剤室、薬品管理は注射・製剤の責任者に提出する。

総 論	☐ 薬剤部の理念
	☐ 薬剤部の基本方針
	☐ 薬剤部の目標
	☐ 薬剤部の教育方針
	☐ 薬剤部の研修計画
	☐ その他
内服・外用 調剤	☐ 調剤内規
	☐ 処方箋（種類、形式、記載事項、出力方法）
	☐ 調剤
	☐ 錠剤・外用剤
	☐ 散剤
	☐ 水剤
	☐ 一包化
	☐ 粉碎化
	☐ 軟膏混合
	☐ 経口抗がん薬の調剤
	☐ 糖尿病治療薬の調剤
	☐ ハイリスク薬の調剤
	☐ ハイリスク薬の定義
	☐ 向精神薬・毒薬の調剤
	☐ 麻薬の調剤
	☐ 処方監査
	☐ チェックシート（オーダチェック機能について）
	☐ 薬物相互作用
	☐ 小児薬用量
	☐ 投与期間
	☐ CKD・透析患者の投与量
	☐ 経管投与不適
	☐ ハイリスク薬
	☐ 検査値
	☐ アレルギー・副作用歴
	☐ 疑義照会（方法と記録）
	☐ 窓口業務
	☐ 薬剤説明書
	☐ お薬手帳
	☐ 外来患者への説明・指導
	☐ 車の運転
	☐ 包装変更
	☐ 糖尿病治療薬・インスリン指導
	☐ 吸入指導

	☐ 麻薬指導
	☐ 抗がん薬指導
	☐ 持参薬鑑別
	☐ 患者サポートセンター
	☐ 院外処方
	☐ 入院処方の搬送
	☐ 電子カルテの使い方
薬品管理	☐ 麻薬
	☐ 毒薬、筋弛緩薬、サリドマイド誘導体
	☐ 覚せい剤原料
	☐ 向精神薬
	☐ 特定生物由来製品
	☐ 予防接種（国有ワクチン含む）
	☐ 保冷庫の温度管理
	☐ 棚卸・在庫管理
注射薬調剤	☐ 注射薬処方箋（種類、形式、記載事項 出力方法）
	☐ 注射薬自動払出システムによる個人別セット
	☐ 処方箋コメント
	☐ ミニ薬歴
	☐ 処方監査
	☐ 処方箋コメント
	☐ 配合変化
	☐ 投与ルート
	☐ 投与速度
	☐ 希釈濃度
	☐ 希釈液
	☐ 投与期間
	☐ 注射薬の配合変化の調べ方
	☐ 輸液セット（PVC フリー、抗悪性腫瘍薬専用、 フィルター有無）
	☐ TPN の組成・約束処方
	☐ 抗がん薬のレジメン、治療計画書
	☐ 抗菌薬の届出（セット処方での運用）
	☐ 薬剤部門関連システム（血液製剤管理システム、がん化学療法管理システム）
製 剤	☐ 注射薬の無菌調製
	☐ TPN
	☐ 抗がん薬
	☐ 閉鎖式器具
	☐ 腎還流液
	☐ クリーンルーム・クリーンベンチ・安全キャビネットの設備・構造
	☐ 抗がん薬の取扱い
	☐ 製剤室の機器（高圧蒸気滅菌、蒸留装置、恒温槽、乾燥機）
	☐ 院内特殊製剤の調製法（院内製剤のファイル、病院薬局製剤）
	☐ 院内製剤記録簿
	☐ 一般製剤（散剤、錠剤、坐剤、軟膏剤など）
	☐ 無菌製剤（注射剤、点眼剤など）
	☐ 消毒剤
	☐ 毒劇物管理
	☐ 感染性廃棄物の取り扱い
医薬品情報 (DI)	☐ 情報の種類・収集
	☐ 添付文書・インタビューフォーム
	☐ PMDA

	☐ 緊急安全性情報・安全性速報
	☐ 医薬品・医療機器等安全性情報、DSU
	☐ 使用上注意の改訂
	☐ 院内医薬品集と採用医薬品リスト（電子カルテ MDview）
	☐ 薬剤データベース・RPM の活用
	☐ 書籍、文献、インターネット
	☐ 医薬品情報活動
	☐ DI ニュース（電子カルテ参照）
	☐ 医薬品情報ファイル（電子カルテ参照）
	☐ 質疑応答（Q&A 集、Q&A 記入用紙）
	☐ 副作用情報の収集と報告（院内報告 CLIP・PMDA 報告）
	☐ 副作用救済制度について
	☐ 情報の回覧について
	☐ 薬事委員会
	☐ 適応外使用
	☐ 治験
病棟業務	☐ 病棟薬剤業務
	☐ 薬剤管理指導業務
	☐ 患者指導、お薬説明書、お薬手帳
	☐ 持参薬管理
	☐ 薬剤師の記録
	☐ 医薬品の適正使用
	☐ 医薬品情報の提供
	☐ 相談応需
	☐ 処方提案
	☐ 救急カート、常備薬管理
	☐ 副作用情報の収集と報告（院内報告 CLIP・PMDA 報告）
	☐ アレルギー、副作用歴
	☐ 配薬セット
	☐ TDM の対象薬剤
TDM	☐ TDM に必要な情報
	☐ 薬物動態パラメータを利用した体内動態予測
	☐ 抗 MRSA 薬の投与設計
	☐ 抗 MRSA 薬の投与設計
チーム医療	☐ 周術期管理
	☐ 感染管理
	☐ 栄養管理
	☐ 疼痛管理
	☐ がん化学療法
	☐ 薬剤師外来

(2) 中期・後期研修プログラム

I 総論

自己評価：◎指導監督なしでできる ○指導監督の下でできる △努力を要する（2年目は△を○以上にすることが目標）

	到達目標	1年目 自己評価		2年目 自己評価	
		7月	1月	7月	1月
(1) 社会人としての行動	適切な言葉使いができ、他者との良好な関係を作ることができる				
	身だしなみが良くいつも清潔感がある				
	健康で心身共に安定した状態で仕事に臨むことができる				
	患者に共感的態度で接することができる				
	患者の人権を尊重し、職業上の秘密を守ることができる				
	責任を持って仕事を行い、責任ある対応ができる				
	病院の規定に基づき諸手続きができる				
(2) 組織人としての行動	同僚や医師等と円滑なコミュニケーションをとり、業務ができる				
	業務上の問題を上司に相談できる				
	関連する部門との間で生じた問題を上司に報告できる				
(3) 情報管理	電子カルテを適切に取扱うことができる				
	個人情報保護規定を理解している				
(4) リスクマネジメント	医療安全管理体制が理解できる				
	インシデント（ヒヤリ・ハット）事案発生時に上司へ報告できる				
	院内のインシデント報告書の作成手順が説明でき、作成できる				
	インシデントが起こった場合の対処方法について提案できる				
(5) 業務管理	業務上の報告・連絡・相談ができる				
	決められた業務を時間内に終了できるよう調整できる				
	優先順位を考え実施できる				
	未経験の事例が生じた場合、速やかに上司・同僚への協力要請ができる				
(6) 医療人としての薬剤師	医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる				
	生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する				
	職務上知り得た情報について守秘義務を守る				
(7) 感染対策	感染性廃棄物の分別ができる				
	感染対策を理解し行動している				
	薬剤部内の清掃や整理整頓を心掛けている				
(8) 災害・防災管理	災害発生時の対応と役割を理解している				
	災害発生時の初期行動がとれる				
	消火設備と避難ルートを理解している				
	災害時に医療セットの薬品の準備ができる				
(9) コミュニケーション	医療コミュニケーションの技法（傾聴、受容、共感、質問法、伝え方、解釈モデル等）を実践する				
	患者の意思決定支援に役立つナラティブコミュニケーションを理解する				
	悪い知らせを伝えるコミュニケーション（SPIKESモデル等）を理解する				
(10) 教育	学生・新人指導に関心を持ち、指導者に協力できる				
	学生・新人指導に関心を持ち、業務関連のオリエンテーションができる				
(11) 自己開発	日常業務の問題点・疑問点を解決する努力をしている				
	積極的に、勉強会・研修会に参加している				
	薬剤師の専門性を理解しチーム医療の実践力を身につける				
(12) その他	機械・器具を正しく取り扱うことができる				
	物品・消耗品を、無駄なく使用している節電に努めている				
	非常用連絡体制について理解でき、行動できる				

Ⅱ 内服・外用薬調剤

自己評価：◎指導監督なしでできる ○指導監督の下でできる △努力を要する（2年目は△を○以上にすることが目標）

	到達目標	1年目 自己評価		2年目 自己評価	
		7月	1月	7月	1月
(1) 処方せんと調剤（院外処方も含む）	処方せん（外来、入院患者を含む）の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる				
	薬袋に記載すべき事項を列挙し記入できる				
	処方オーダーリングシステムを概説できる				
	調剤を法的根拠に基づいて説明できる				
	代表的な処方せんについて鑑査における注意点を説明できる				
	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる				
	代表的な医薬品について効果、用法・用量および副作用を説明できる				
	代表的な医薬品について警告、禁忌を列挙できる				
	処方せんの法的位置づけについて説明できる				
	処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる				
	処方せんの記載事項（薬品名、用法・用量など）の確認ができる				
	処方せんの修正・削除時に適切な対応ができる				
	処方せんの印字内容（検査値、調剤棚番号、処方箋コメント、薬歴など）が理解できる				
	不適切な処方せんの対処方法を理解し、実践できる				
	患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる				
	患者の特性や病態（小児、腎機能等）に適した用量を計算し調剤できる				
	患者に適した剤形を選択できる				
	異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる				
	医薬分業の仕組みと意義を概説できる				
	一般名処方や後発医薬品について説明できる				
(2) 疑義照会	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる				
	疑義照会の手順を概説できる				
	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる				
	処方せんの問題点を解決するために、医師と協議できる				
	適切で円滑な疑義照会ができる				
	疑義照会システムに簡潔明瞭に入力することができる				
	疑義照会システムに入力された情報を有効利用できる				
(3) 計数・計量調剤	処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる				
	錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる				
	代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる				
	院内調剤内規に基づいて、液剤や散剤の計量調剤ができる				
	軟膏の配合変化や混合時の注意事項を理解し、調剤できる				
	錠剤の吸湿性や安定性について理解し、自動調剤分包機を用いた一包化調剤ができる				
	代表的な医薬品の剤形を列挙できる				
	代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる				
	注射剤室に在庫がある医薬品の調剤ができる				
	麻薬、毒薬、向精神薬、サリドマイド誘導体などの厳重な管理を要する薬品の調剤ができる				
	調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的な取扱いができる				
	調剤機器（秤量器、分包機など）トラブル発生時に適切な対応ができる				
	監査システムの概要を説明できる				
	原薬量と製品量の違いについて説明できる				
	錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる				

	細胞毒性のある医薬品の調剤について説明し暴露防止対策を実践できる				
	調剤された医薬品に対して、最終鑑査を実施できる				
(4)服薬指導と患者情報	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる				
	患者の基本的権利、インフォームドコンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる				
	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる				
	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる				
	守秘義務を理解し、個人情報に配慮した服薬指導を実施できる				
	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導を実施できる				
	患者背景（コップライアス、経過、診療録、薬歴）など服薬指導に必要な情報を効率的に把握できる				
	患者接遇に際し、配慮が必要な注意点を列挙できる				
	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる				
	共感的態度で患者面談ならびに指導を実施できる				
	服薬指導の内容を簡潔明瞭に記録できる				
	患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる				
	眼軟膏、坐薬、吸入薬、自己注射等の取扱いについて説明し指導できる				
	服用方法、保管方法等、医薬品に関する質問に適切な対応ができる				
	服薬指導を通じて、副作用発現や服薬遵守状況の情報を入手できる				
(5)安全対策	リスクマネジメントにおける薬剤師の職責や役割を説明できる				
	調剤過誤を防止するために工夫されている実例を列挙できる				
	商品名の綴り、発音、複数規格あるいは外観類似薬を列挙できる				
	医薬品に関わる過失あるいは過誤がおきた場合の適切な対処法について説明できる				
	インシデント、アクシデント報告書を作成し、上司に速やかに報告する手順が理解できている				
	職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる				
	業務中に生じた諸問題（調剤ミス、調剤過誤、事故、クレームなど）の報告を手順に従って報告できる				
(6)医薬品の管理と供給	医薬品管理の意義と必要性について説明できる				
	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる				
	毒薬、覚せい剤原料、向精神薬、サリドマイド誘導体等の管理および取扱い（廃棄を含む）について説明できる				
	麻薬の管理および取扱い（廃棄を含む）について説明できる				
	病棟配置薬の適切な管理をすることができる				
	代表的な特定生物由来製剤の種類と適応を説明できる				
	特定生物由来製剤の管理と取扱（投薬、廃棄など）について説明できる				
	医薬品管理の流れを概説できる				
	医薬品の適正在庫の意義を説明できる				
	発注、納品、調剤までの医薬品の動きを理解し、薬剤師業務と関連づけて説明できる				
	医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる				
	納品後の医薬品の処理方法を説明できる				
	適切な払い出しを実施し、在庫管理ができる				
	院内の医薬品の供給方法（実施済み、臨時、定期）について説明できる				
	使用期限や使用頻度、在庫金額を考慮した医薬品の管理が実践できる				
	請求伝票で払い出す薬品を列挙できる				
	伝票や処方箋の種別に応じた払い出しができる				
	請求のあった医薬品を取り揃えることができる				

Ⅲ 注射薬調剤

自己評価：◎指導監督なしでできる ○指導監督の下でできる △努力を要する（2年目は△を○以上にすることが目標）

	到達目標	1 年目 自己評価		2 年目 自己評価	
		7 月	1 月	7 月	1 月
(1) 処方せんと 注射薬調剤	注射オーダリングシステムを概説できる				
	注射薬調剤の流れを概説できる				
	代表的な処方せんについて鑑査における注意点を説明できる				
	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる				
	代表的な医薬品について効果、用法・用量および副作用を説明できる				
	代表的な医薬品について警告、禁忌を列挙できる				
	注射処方せんの法的位置づけについて説明できる				
	注射処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる				
	注射処方せんの記載事項（医薬品名、用法・用量など）の確認ができる				
	注射処方せんの修正・削除時に適切な対応ができる				
	注射処方せんの印字内容（検査値、投与時間、投与経路、処方箋コメント、薬歴など）が理解できる				
	不適切な注射処方せんの対処方法を理解し、実践できる				
	患者の特性や病態（小児、腎疾患等）に適した用量を計算し調剤できる				
	患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる				
	異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる				
	注射処方せんの記載に従って正しく注射薬の取りそろえができる				
	麻薬、毒薬、劇薬、向精神薬等の注射薬の調剤と適切な取扱いができる				
	注射薬の代表的な配合変化と回避方法を説明できる				
	特別な注意を要する注射薬（細胞毒性がある等）の取扱いができる				
	調剤された注射薬に対して、正しい鑑査ができる				
	注射薬処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる				
(2) 疑義照会	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる				
	疑義照会の手順を概説できる				
	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる				
	処方せんの問題点を解決するために、医師と協議できる				
	適切で円滑な疑義照会ができる				
	疑義照会システムに簡潔明瞭に入力することができる				
	疑義照会システムに入力された情報を有効利用できる				
(3) 医薬品の管 理と供給	法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤等）を挙げ、適切に管理できる				
	法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤等）の適切な取扱い（払い出し、返納）ができる				
	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる				
	医薬品の発注と検収ができる				
	病棟配置薬の適切な管理をすることができる				
	同一商品名の医薬品に複数規格があるものについて列挙できる				
	代表的な同種・同効薬を列挙できる				
	医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる				
	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる				
	予防接種の流れについて概説できる				
	国有ワクチンの入手方法がわかる				
(4) 安全対策	調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる				
	職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる				
	医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処ができる				
	インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネージメントを行うことができる				
	業務中に生じた諸問題（過誤、事故、クレームなど）を、インシデントシステムに入力できる				

Ⅳ 製 剤

自己評価：◎指導監督なしでできる ○指導監督の下でできる △努力を要する（2年目は△を○以上にすることが目標）

	到達目標	1 年目 自己評価		2 年目 自己評価	
		7 月	1 月	7 月	1 月
(1) 院内製剤	院内製剤の意義、品質管理の説明ができる				
	院内製剤の調製及び使用指針（日本病院薬剤師会）について概説できる				
	院内製剤のクラス分類について説明でき、クラス分類毎に必要な院内の手続き（院内特殊製剤申請書）について説明できる				
	院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤を調製できる（軟膏、坐剤、散剤、液状製剤（消毒薬を含む）など）				
	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる				
	消毒薬調製時の注意点を説明できる				
	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる				
	無菌製剤の必要性を理解し、点眼液、注射液などの製剤を調製できる				
	滅菌瓶などの院内製剤に使用する器具の洗浄・保管管理ができる				
	オートクレーブ・蒸留水精製装置など院内製剤に使用する機器を正しく取扱うことができる				
	製剤室で使用する医薬品や物品の在庫管理ができる				
	製剤室で使用する医薬品や試薬・物品の発注ができる				
(2) TPN・抗悪性腫瘍薬調製	代表的な輸液、経管栄養剤の種類や適応を説明できる				
	体内電解質の過不足を判断して補正できる				
	細胞毒性のある注射薬の血管外漏出時の対策が説明できる				
	注射薬の配合変化に関して実施している回避方法を列挙できる				
	抗悪性腫瘍薬の調製記録を出力し、注意事項の記載等の準備ができる				
	クリーンウェアを正しく着用できる				
	クリーンベンチ・安全キャビネットを正しく使用できる				
	スピルキットの内容を把握し、取り揃えることができる				
	抗悪性腫瘍薬などのケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる				
	注射薬（高カロリー栄養輸液（TPN）など）の無菌調製ができる				
	特別な注意を要する注射薬の混合調剤（調製）ができる				
	抗悪性腫瘍薬の調製前個別セットおよびセット監査が正しくできる				
	調製後の安定性や施行順を理解し、適切な払出ができる				
	抗悪性腫瘍薬オーダ変更時の対応ができる（実施確認解除等も含む）				
	混合調剤（調製）された抗がん薬・TPNを正しく鑑査できる				
	レジメンオーダを理解し適切にレジメン管理ができる				
	CCMSの変更・継続複写などの操作を正しく行うことができる				
	入院患者における無菌調製のコスト変更を入院業務課へ連絡できる				
	クリーンルーム・ハザード室の浮遊粒子試験を行うことができる				
	NST担当者へTPN施行患者の情報提供できる				
(3) 疑義照会	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる				
	処方せんの問題点を解決するために、医師と協議できる				
	疑義照会システムに簡潔に入力し、その情報を活用できる				
(4) 安全対策	無菌調製の過誤を防止するために工夫している実例を列挙できる				
	スタッフの暴露防止を考慮し対策を講じることができる				
	血管外漏出や過敏症の対策を説明できる				
	PBPMを理解し安全かつ効率的な業務を実践できる				

V 病棟業務

自己評価：◎指導監督なしでできる ○指導監督の下でできる △努力を要する（2年目は△を○以上にすることが目標）

	到達目標	1年目 自己評価		2年目 自己評価	
		7月	1月	7月	1月
(1) 病棟薬剤業務	入院患者に使用されている、内服・注射の使用状況が把握できる				
	担当病棟に関連のある医薬品の安全性情報等を把握し周知できる				
	医療スタッフからの相談に対して、適切な情報を提供することができる				
	入院時持参薬を確認し、入院中の服薬計画を医師に提案できる				
	2種類以上の薬剤を同時に投与する場合、投与前の相互作用を確認し、適切に対応できる				
	ハイリスク薬品について、投与前に患者に説明することができる				
	注射薬剤の投与前に、流量または投与量の確認ができる				
	薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間の変更や検査オーダーについて、専門的な知見から、医師と事前に協議し作成・合意されたプロトコルを実施することができる				
	患者の状態に応じて、医師に処方提案することができる				
	TDMや副作用モニタリングに基づき、使用中の薬剤について、医師に薬剤の変更や投与量の変更など、処方提案することができる				
	病棟業務に関する内容を日誌に記録・保管することができる				
	処方・注射オーダーの操作方法を習得し、PBPMの実践ができる				
(2) 薬剤管理指導業務	病棟業務における薬剤師の業務（薬剤管理、与薬、リスクマネージメント、供給管理など）を概説できる				
	ポリファーマシーについて理解し減薬や中止の提案ができる				
	薬剤管理指導内容について SOAP 形式で正確に記録することができる				
	退院、転院時の服薬指導ができる				
	診療報酬を理解して算定できる				
	病棟において医療チームの一員として医師、看護師やその他の医療スタッフとコミュニケーションがとれる				
	診療録、看護記録など、種々の情報源から必要な情報を収集し、それを薬物治療に活用することができる				
	収集した情報を正確に記載できる（薬歴、服薬指導歴など）				
	患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる				
	使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる				
	臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を理解し薬物治療に活用できる				
	医師の治療方針を理解したうえで患者へ適切な服薬指導ができる				
	患者との会話を通して、薬識、病識、服薬状況を把握することができる				
	患者がリラックスし自発的に話ができるようなコミュニケーションを実施できる				
	治療効果が不十分と思われる場合の対処法について提案できる				
	副作用が疑われる場合の適切な対処法について、提案・報告ができる				
	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる				
	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる				
	代表的な症例について服薬指導の内容を適切に記録できる				
	患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる				
(3) 薬剤の安全な使用に向けた対策の実践	代表的な自己注射薬について、取扱いを説明できる				
	月末業務を把握し必要性を説明できる				
	リスクマネージメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる				
	病棟配置薬や管理薬（麻薬・毒薬・向精神薬）を適切に管理し、病棟スタッフに指導することができる。				
	病棟配置薬等で、商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙し、誤薬防止のための対策を講じることができる				

	医薬品に関わる過失あるいは過誤を把握し、適切な対処法が提案できる				
	ハイリスク薬の管理および取扱いについて説明できる				
	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる				
	麻薬、向精神薬の管理と取扱い（投薬、廃棄等）について説明できる				
	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる				
	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる				
	生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる				
(4) 疑義照会	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる				
	疑義照会の手順を説明できる				
	処方せんの問題点を解決するために、医師と協議できる				
	疑義照会システムに簡潔明瞭に入力することができる				
	疑義照会システムに入力された情報を有効利用できる				
	患者の症状や訴えから、医薬品の副作用を把握し、必要に応じて主治医に情報提供できる				
	医薬品について効果、用法・用量を把握し、適切な疑義照会ができる				
	医薬品について警告、禁忌、副作用を把握し、適切な疑義照会ができる				
	医薬品について相互作用や配合変化を把握し、適切な疑義照会ができる				
(5) プレアボイド報告	プレアボイド報告の必要性を十分に理解し適切に報告することができる				
	重篤化回避、未然回避、薬物治療効果の向上の三つのタイプのプレアボイドの違いについて理解できる				
	これまでに報告されているプレアボイド報告事例を参考にして、病棟業務に活用することができる				
	お薬手帳や入院時持参薬報告書から、患者の服用薬を確認し、入院時処方薬との相互作用を事前に確認することができる				
	患者の臨床症状だけでなく、検査値や医療スタッフからの情報から、副作用の発現状況を確認できる				
	プレアボイド事例が発覚した場合に、適切な処方提案あるいは薬剤の中止を医師に提言できる				
(6) 地域連携	地域の医師、看護師、薬剤師との連携の必要性について理解できる				
	保険薬局から報告されるトレーシングレポートを活用することができる				
	施設間情報連携書や退院時サマリを作成し他施設や薬局と連携ができる				
	在宅医療の仕組みや関連職種の役割について理解し説明できる				
	退院時カンファレンスに参加し服薬の提案や管理方法等について他職種とコミュニケーションをとることができる				
	医療保険や公費制度等について理解する				
(7) TDM	薬物血中濃度測定 of 臨床的意義を説明できる				
	臨床 TDM を必要とする薬物を列挙し、各薬剤の条件を説明できる				
	TDM の血中濃度測定依頼、結果報告、薬物血中濃度解析および解析結果・投与計画の報告までの過程を見学し、流れを説明できる				
	抗 MRSA 薬の初回投与設計および血中濃度測定依頼ができる				
	TDM の解析ソフトを薬剤に応じて使い分けることができる				
	TDM 対象薬物の体内動態に影響する要因を理解し、TDM 対象薬物投与中の患者状態の把握、必要に応じた血中濃度測定の依頼ができる				

VI 医薬品情報

自己評価：◎指導監督なしでできる ○指導監督の下でできる △努力を要する（2年目は△を○以上にすることが目標）

	到達目標	1年目 自己評価		2年目 自己評価	
		7月	1月	7月	1月
(1) 医薬品情報	当該病院で使用している医薬品情報源の種類と特徴を説明できる				
	院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる				
	PMDA について説明できる				
	緊急安全性情報などの緊急情報の取扱い方法について説明できる				
	院内マニュアルの種類、掲載場所等について説明できる				
	電子カルテ内の薬剤部のHPについて説明および利活用できる				
	医薬品情報ファイルの掲載内容について説明できる				
	薬剤データベース・MDview について説明および利活用できる				
	部内で閲覧する医薬品情報について説明できる				
	部内での情報共有方法について説明できる				
	部内の医薬品情報（添付文書、IF、書籍等）の取り扱いについて説明できる				
	院内医薬品集と採用医薬品リストの運用について説明できる				
	DI ニュースについて説明できる（頻度、内容、提供手段など）				
	患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる				
	医療スタッフからの質問に対する適切な対応ができる。 ※報告書(Q&A 報告) の記入やDI 担当者への報告を含む				
	薬事委員会について概説できる（手順含む）				
	採用薬や削除薬および緊急購入薬（分譲購入薬）について説明できる				
	新規購入薬の申請からオーダ開始までの流れを概説できる				
	新規採用薬（購入薬）の必要な情報を手順に沿って収集できる				
	医薬品の基本情報を、文献、MR など様々な情報源から収集できる				
	院内で発生した副作用の報告体制について説明できる				
	副作用救済制度について説明できる				
	適応外使用について説明できる（手順等含む）				
	製造販売後調査の種類と手順について概説できる				
(2) 治験	薬剤部の治験への関わりについて概説できる				

Ⅶ チーム医療

自己評価：◎指導監督なしでできる ○指導監督の下でできる △努力を要する（2年目は△を○以上にすることが目標）

	到達目標	1年目 自己評価		2年目 自己評価	
		7月	1月	7月	1月
(1)チーム医療全般	チーム医療における薬剤師の役割を説明できる				
	薬剤部が関与しているチーム医療、他部門との連携を理解する				
	外来入院部門・画像診断C・リハ室・栄養課・検査課・ME関連・事務部・看護部等の業務内容を理解する				
	他職種等からの相談応需に対し適切に対応できる				
	高齢者、小児、妊婦・授乳婦などスペシャルボピュレーションとしての薬物動態を理解し対応することができる				
(2)がん化学療法	外来化学療法室における薬学的管理や業務を理解し説明できる				
	各がん種の標準レジメンを挙げることができる				
	術前・術後、進行再発の治療について説明できる				
	適切な支持療法を説明できる				
	CTCAEのgrade評価を活用し副作用を評価することができる				
	B型肝炎治療ガイドラインを理解し症例に応じた対応ができる				
	免疫関連有害事象を理解し症例に応じた対応ができる				
	緩和回診用テンプレートやせん妄対策テンプレートの入力ができる				
	症例に応じた疼痛評価、せん妄評価ができる				
	オピオイドの定期あるいはレスキューの使用について説明できる				
	オピオイドのスイッチングや支持療法の提案ができる				
(3)感染制御	標準予防策（手指衛生、個人防護具）を適切に理解し使用できる				
	代表的な感染症の予防策と適切な消毒薬を選択できる				
	培養や検査結果により適切な抗菌薬選択ならびに用量が提案できる				
	感染症発生時の初期対応や感染拡大予防策について説明できる				
	ICT、ASTにおける薬剤師の業務や役割を理解し説明できる				
	針刺し事故時の対応について説明できる				
(4)周術期における薬剤管理	手術室および集中治療における薬学的管理を理解し説明できる				
	手術患者の入院から退院までの流れや治療計画について説明できる				
	周術期の指示内容（術前休薬、ステロイドカバーなど）を確認できる				
	アレルギーに対する代替薬が提案できる				
	術後疼痛の評価や鎮痛薬の提案ができる				
	休止薬の再開について確認・提案できる				
(5)栄養管理	NSTにおける薬学的管理を理解し説明できる				
	栄養状態の把握ができる				
	栄養士と連携し患者に最適な処方設計ができる				
	代表的な輸液や経腸栄養剤の種類と適応を説明できる				

(3) 卒後研修プログラム進捗確認票

研修者氏名：

研修者は、7月、1月に各自研修プログラムの自己評価を行い、各部署の責任者に進捗確認票を提出し、修了確認を受ける。

	1 年目		2 年目	
	日付	確認印	日付	確認印
調剤室				
内服・外用薬調剤				
注射剤室				
注射薬調剤				
製剤・無菌調製				
病棟活動				
病棟業務				
TDM				
医薬品情報				

研修者は、各部署の責任者に修了確認を受けた後、統括責任者に提出する。
統括責任者は、2年目年度末を目安に終了判定を行う。

	日付	終了確認印
統括責任者終了判定		